

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
金澤悠介・宇佐美誠史		s-usami@iwate-pu.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
平井 勇介		岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域調査実習I	IWKa-160801-0	35人	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

岩手県立大学総合政策学部の学生に対する生活実態と意識に関する質問紙調査の完遂にあたり、学生の果たした役割は、6つのサブテーマ（大学での学び、就職への準備、地域志向、消費生活、課外活動、政治参加）ごとの班構成に基づき、仮説構築、調査票の設計、調査票の配布と回収、データ入力・整備、統計分析、報告書の作成、学内発表会での報告を行ったことである。

実習全般に対する感想としては、講義の回を追うごとに自主性・積極性が観察されるようになってくるとともに、調査・分析の質を高めるための意欲が見受けられたため、受講生の努力を一定程度評価できるといえよう。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

大学生の生活と意識に関する調査

2. 調査の内容／概要：

岩手県立大学総合政策学部の学生の生活実態と意識を明らかにするために、質問紙調査を実施した。今年度の調査では、学生の生活実態と意識の中でも、とくに、大学での学び、就職への準備、地域志向、消費生活、課外活動、政治参加の6つのサブテーマごとに、班を構成して、調査を計画・実施した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

母集団：岩手県立大学総合政策学部に所属する学部生（1年生～3年生） 標本数：360名 サンプリング方法：授業を有意抽出

調査法：集合法（授業）に基づく質問紙調査

4. 主な調査項目：

性別、学年、所属コース、出身地、居住形態、生活時間、高校時代の成績、大学での学習方法、大学の成績、勉強時間、図書館の利用状況、オフィスワークの活用状況、志望の就職先（産業）、資格の取得状況、就職活動・アルバイト・インターン・政治への参加状況、地域行事・課外活動・ボランティアへの参加状況、地域に対するイメージ、ファッションと食に対する嗜好・来店頻度・支出額、生計、政治の情報源（メディア）、政治への関心。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

量的調査法のうち、自記式の質問紙調査を集合法（授業中）によって実施した。質問紙調査では、調査員（受講者）が質問紙に関する教示・調査概要の説明・質問紙の配布と回収を行い、担当教員が付添として監督・フォローした。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査の実施時期：2016年6月17日（金）～24日（金） 調査地：岩手県立大学の施設内（教室）

調査員の数：20名（内訳：教員2名、学生18名）

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

以下の通り、回収率が高いため、母集団をある程度代表する標本が得られたと評価できる。有効回収票数：321名 回収率：89.2%

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

質問紙調査によって収集したデータを、コーディング・データ入力・エディティング・クリーニングしたのちに、統計ソフトSPSSver.23を用いて、統計分析を行った。おもな分析法は、カイ二乗検定・相関分析・t検定・分散分析である。当調査は、おもに仮説検証型の研究に位置付けられることから、統計的仮説検定に基づいて、結果を解釈した。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

調査から得られた主な知見は、以下のとおりである。大学での学び（普段の学習時間が長い学生ほど、苦手科目に対処している）、就職への準備（就職先に求める条件の中でも、職場の雰囲気が良いことが最重視される）、地域志向（公務員志望の人は、県内就職を希望する）、消費生活（男子学生の方が、親から服を買い与えられる）、課外活動（女子学生の方が、ボランティア活動で獲得可能なスキルが多いと思っている）、政治参加（実家暮らしの学生の方が、参議院選挙に行くつもりである）。

10. 報告書刊行の予定と概要：

報告書については、「地域調査実習I発表会報告集」を提出する予定である。報告書の概要は、上記で示した通りである。